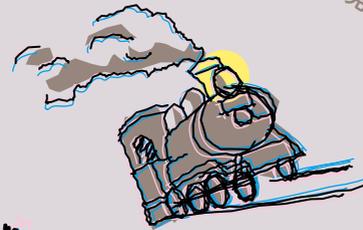


近代化遺産の

見方 味わい方

見方を知れば より面白い



JAPANESE MODERNIZATION HERITAGE



目次

CONTENTS

1 近代化遺産とは 2

Japanese Modernization Heritage

2 多彩な近代化遺産 3

Various Modernization Heritage Properties

鉄道 5 / 灯台 7 / 水道 9 / 鉱山・鉱業施設 11
繊維産業施設 13 / 旧軍施設 15 / 銀行 17
その他 19-24
(発電施設 / 農業施設 / 住居 / 商業施設 / 官公庁舎・公共施設
地域を支えた近代の産業)

3 近代化遺産の見方・味わい方 25

Understanding and Appreciating Modernization Heritage Properties

現役の施設 27 / 転用された施設 28
材料・工法を見る 29 / 動きやシステムを知る 33
非日常の空間を楽しむ 35 / デザインを味わう 39



Japanese Modernization Heritage

近代化遺産とは

幕末から第二次世界大戦期までの間に、
近代的手法によって建設され、
日本の近代化に貢献した、
産業、交通、土木に関する遺産が、
「近代化遺産」です。

.....

近代化遺産は、
見慣れた風景の中にも存在し、
その多くが、
今も私たちの身近で暮らしを支えています。



過去より現在に受け継がれる、
熱き思い



2

Various Modernization Heritage Properties

多彩な近代化遺産

私たちを支えている水や電気、交通などの都市基盤、様々な産業・文化の多くは、幕末から明治、大正、昭和という日本の近代に、先人たちが海外の技術等を取り入れながら必死につくりあげてきた施設やシステムが礎となっています。

様々な近代化遺産は現在まで受け継がれ、当時の技術の高さや近代化への情熱を伝えてくれます。

旧佐世保無線電信所
(針尾送信所)
〔佐世保市〕

©小野吉彦

鉄道施設

Railway Facilities

山を越え、まちをつなぐ



©小野吉彦

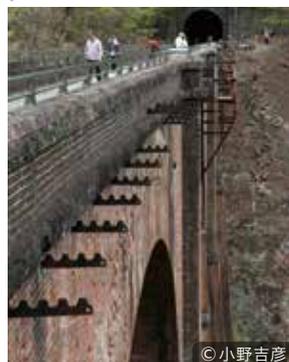
旧碓氷峠鉄道施設〔安中市〕 交通の要所・碓氷峠を越える鉄道の施設群。廃線となった現在は、一部が遊歩道「アプトの道」として整備され、山と鉄道を眺めながら歩くことができます。

日本の鉄道は、東京の新橋・横浜間の鉄道開通を第一歩として、明治末期までにはほぼ全国で幹線網が完成しました。鉄道の発展によって、人や貨物の大量で速い輸送が可能になり、日本の経済は大きく変わっていきました。

鉄道に関する近代化遺産には、線路や軌間（ゲージ）、駅舎、ホーム、トンネル、橋梁など、数多くの施設があります。これらの建設にあたっては、海外の技術を取り入れながら、地形や気候に合わせて様々な工夫がなされました。

近代につくられた鉄道施設には、現役のものもあれば、当初の役目を終え、当時の技術や地域の歴史を学ぶ施設になっているものもあり、様々な楽しみ方ができます。

200万個以上の煉瓦が使われています



©小野吉彦

碓氷第三橋梁〔安中市〕

「めがね橋」とも呼ばれる、国内最大規模の煉瓦造アーチ橋。



わかさ
若桜鉄道
〔若桜町〕

若桜駅構内には、駅舎をはじめ、蒸気機関車の方向転換を行うための機関車転車台、給水塔、雪を流すための流雪溝などが残り、昭和初期の終着駅の雰囲気を感じることができます。

©小野吉彦



©小野吉彦

清水港テルファー〔静岡市〕

清水駅から旧JR臨港線を引きこんだ清水港駅に、木材積込用に建設された鉄道施設。海運と陸運を結んでいました。



近畿日本鉄道道明寺線〔柏原市〕

明治31年の開業時に築かれた煉瓦構造物が4件あり、現役で使われています。鉄道構造物では少ないとされる「フランス積み」(P.30参照)の煉瓦の橋もあります。



©小野吉彦

**旧国鉄土幌線
タウシュベツ橋梁**〔上士幌町〕

内陸の森林資源の運搬を目的に建設された鉄道遺産の一部。現在は、橋梁の周りにつくられたダムの水位によって見え隠れするため、「幻の橋」とも呼ばれています。



いび
旧揖斐川橋梁〔大垣市〕

イギリスの鉄道技術を取り入れ、当時最大級の規模で建設されました。日本で最初に完成した幹線鉄道・東海道線で、唯一原位置に残る遺構でもあります。



**くま川鉄道
球磨川第四橋梁**〔人吉市〕

322mの橋長を誇ります。鉄道沿線には、のどかな田園風景の中に開業当時の橋梁や木造駅舎、昭和に入って建設された施設などがまぎらわしく残っています。

*令和2年10月現在、豪雨による被害のため、見学できない施設があります。

灯台

Lighthouses

新時代の海を見守る



©小野吉彦

角島灯台〔下関市〕1876年に初点灯した総御影石造の灯台。現役で活躍しています。



提供：(公社)燈光会

日本に西洋式灯台が築かれるようになったのは、明治維新の時代。徳川幕府による鎖国が解かれ、日本とイギリスの間で結ばれた江戸条約によって8基の灯台を建設することになったのが始まりです。

1868（明治元）年の観音埼灯台（横須賀市）の建設開始を皮切りに、日本の灯台建設は本格化していきました。昭和に入ると西洋式灯台は300基を超え、現在も各地で3000基以上の灯台が活躍しています（2020年現在）。

観音埼灯台

〔横須賀市〕

日本の西洋式灯台始まりの地で、東京湾を見守ります。現在の灯台は1925年造の三代目です。



提供：(公社)燈光会

清水灯台

〔静岡市〕

日本初の鉄筋コンクリート造の灯台。羽衣伝説にちなみ、頂点の風見鶏は天女の形をしています。



提供：(公社)燈光会

横浜北水堤灯台

〔横浜市〕

1896年の完成から現在まで横浜港を見守る、小さな赤い灯台（高さ約15m）です。



©小野吉彦

旧和田岬灯台

〔神戸市〕

1884年、鑄鉄製に改築。現存する国内最古の鉄造灯台です。現在は須磨海浜公園に保存されています。



旧横浜東水堤灯台

〔横浜市〕

かつては横浜港にあり、北水堤の灯台と紅白で並んでいました。現在は山下公園に保存されています。

灯台の楽しみ方

海や空に映える灯台を外から見るのも楽しみ方の一つですが、中に入って、上まで登れる灯台もあります。灯台内部の急な階段をのぼっていくと、海を一望する絶景が広がります。海に向こうの島々や、周辺の山、花畑など、それぞれの灯台特有の風景が眺められ、季節や天気によって変わる表情も見どころです。上にある、大きなレンズを覗ける灯台も。「のぼれる灯台」には歴史的な灯台が多く、資料展示室を設けているところもあり、灯台の役割、歴史、構造などを知ることができます。

水道

Water Supply and Sewerage Facilities

きれいな水をすべての人に



©小野吉彦

藤倉水源地〔秋田市〕ダムを備えた近代水道施設としては初期のもの。四季折々の自然風景に映える赤いトラス橋も見どころです。

鎖国が解かれると、開港した都市をはじめ各地で、伝染病防止などのため、近代的な上下水道の整備が待望されるようになりました。

1887年、横浜に日本最初の近代水道（上水道）が導入されました。続いて、港町や大都市を中心に、次々に近代水道が整備されていきました。

近代上水道は、濾過装置で水をきれいにし、鉄製の水道管を使い、圧力を加えて水を広範囲に送るものです。安定した供給のために、ダムや配水塔などの施設も作られました。水道の普及とともに、飲み水が広い範囲に、いつでも行きわたるようになりました。

近代下水道もまた港町を皮切りに発展し、現在に至るまで私たちの安全で快適な生活を支えています。



©小野吉彦

旧横浜居留地煉瓦造下水道マンホール〔横浜市〕

日本人の計画による最初の近代下水道の遺構。大栈橋入口の開港広場に保存展示されています。



©小野吉彦

琵琶湖疏水〔京都市〕

1890(明治23)年に完成。水道施設のほか、舟運、水力発電などにも利用され、近代の京都のまちづくりに大きく貢献しました。



©小野吉彦

駒沢給水所〔世田谷区〕

浄水場から人々への給水の中継点の役割を果たしました。町中からよく見える二つの塔は、地域のシンボルとして親しまれています。



©小野吉彦

布引水源地水道施設〔神戸市〕

神戸のまちや船に供給する飲料水の確保と、公衆衛生の向上を主な目的につくられた施設です。六甲山地を水源とし、神戸港に注ぐ生田川の流域にあります（写真は、雌滝取水堰堤）。



©小野吉彦

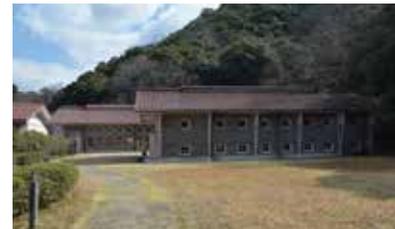
諸戸水道貯水池遺構〔桑名市〕

地域の名士である初代諸戸清六が私財を投じて建設し、市民に提供した上水道。貯水池の側面と底面はコンクリート造、内側はすべて煉瓦造です。



旧美歎水源地水道施設〔鳥取市〕

山陰最古の水道施設としてつくられ、大正から昭和にかけて、鳥取市民の水がめの役割を果たしました。



鏡岩水源地〔岐阜市〕

長良川の伏流水を水源として市域に給水する水道施設です（写真は、旧エンジン室・旧ポンプ室）。

長良川の川原石が使われています

鉱山・鉱業施設

Mines and Mining Facilities

自然の恵みを活かす



三池炭鉱万田坑跡 [大牟田市・荒尾市] 三井の総力を挙げて整備された、日本最大規模の炭鉱施設。 ©小野吉彦

明治に入ると、貨幣鑄造のための金属や、蒸気機関の燃料となる石炭、ランプに使われる灯油の原料となる石油など、鉱物資源の需要が急速に高まりました。

政府は、官営とした鉱山に海外から専門家を招いて近代技術を取り入れるとともに、国内の技術者を養成しました。近代化された鉱山は、やがて民間に払い下げられていきました。

採掘の設備や運搬のための線路に加え、事務所や住宅など、鉱山で栄えたまちの様子を今に伝える近代建築も見どころです。



三池炭鉱万田坑跡 [大牟田市・荒尾市]

炭鉱施設の職場の様子



©小野吉彦

三池炭鉱宮浦坑跡 [大牟田市]

大牟田市・荒尾市に分布する三井三池炭鉱の主力鉱山の一つです（写真は、ボイラーの排煙のためにつくられた煉瓦造の円形煙突）。



©小野吉彦

新津油田金津鉱場跡 [新潟市]

欧米の採掘技術を取り入れ、日本屈指の産油量を誇った油田。1996年まで、約120年にわたって操業が続きました。



©小野吉彦

みこばた
神子畑選鉱所 [朝来市]

採掘した鉱物から使える金属を分離させる施設です（写真は、最終段階で脱水・濾過を行う装置「シックナー」）。



旧小坂鉱山事務所 [小坂町]

かつて全国一位の鉱産額を誇った小坂銅山。西洋風・イスラム風の建築様式を取り入れたとされる事務所は、1997年まで現役で使われていました。



康楽館 [小坂町]

鉱山労働者の福利厚生施設としてつくられた芝居小屋。小坂鉱山の繁栄と鉱山町の都市基盤整備を物語る遺構のひとつでもあります。



©(一社)長崎県観光連盟

高島炭坑 [長崎市]

幕末の開港後、長崎へ寄港する外国の蒸気船の燃料として石炭の需要が高まったことを受けて建設されました。

繊維産業施設

Textile Industry Facilities

良質な製品を大量につくる



旧富岡製糸場 繰糸所内部〔富岡市〕 繭から糸を取る作業が行われていた建物。長さ約140mの、世界最大規模の器械製糸工場だった。建築に「トラス構造」を用いることで、建物の中央に柱のない大空間を作り出しています。

©小野吉彦

明治維新後、政府は「殖産興業」のスローガンを掲げ、近代産業の育成を目指しました。中でも、生糸は主要な輸出品であり、質の向上と大量生産を目指して、世界の先進技術を導入する試みが行われました。1872年には、最初の官営模範工場である富岡製糸場（富岡市）が操業を開始しました。

また、紡績業・製糸業では、明治以前に初の洋式機械紡績工場である鹿児島紡績所が生まれ、明治に入ると、大阪紡績会社（1883年創業）をはじめ、輸入機械を投入した大工場が次々と建設されました。動力織機も発明され、国産の綿糸の生産量は飛躍的に増大していきます。

このような繊維産業は、近代の経済発展に大きな役割を果たしました。



©小野吉彦

旧富岡製糸場 外観



©小野吉彦



©小野吉彦

後藤織物
ノコギリ屋根の工場（上）

工場内部の様子（下）
〔桐生市〕

いち早く洋式染色技術を取り入れ、桐生の織物業発展に大きく貢献した後藤織物。敷地内には、織物生産のシステムを考えてつくられた、ノコギリ屋根の工場や倉庫、釜場などが今も残っています。

グンゼ記念館
〔綾部市〕

古くから盛んだった蚕糸業を近代になって発展させた「郡是製絲（ぐんぜせい）」（後のグンゼ）で、事務所として使われていた建物。グンゼの歩みを中心に、地域の養蚕・製糸に関する歴史資料を展示しています。



旧軍施設

Former Military Facilities

近代技術が生み出した迫力ある風景



©小野吉彦

猿島砲台跡
〔横須賀市〕

無人島につくられた猿島砲台は、東京湾要塞を構成する沿岸砲台の一つ。石積み切通しと煉瓦積みのトンネルや弾薬庫、煉瓦造の発電所などが残っています。



2章扉(P.3)の写真は、この3本の無線塔

旧佐世保無線電信所
(針尾送信所)
〔佐世保市〕

国内に残る唯一の長波送信施設。高さ136mの無線塔3本が正三角形に並んで立ち、当時の鉄筋コンクリート建築の技術の高さを現在に伝えています。



©小野吉彦

舞鶴
旧鎮守府倉庫施設
〔舞鶴市〕

舞鶴鎮守府の軍需品等の保管倉庫としてつくられた施設群。現在は一部が「赤れんが博物館」など様々な施設に生まれ変わり、一帯が「舞鶴赤れんがパーク」として親しまれています。



©小野吉彦

旧呉鎮守府司令長官官舎
(入船山記念館)
〔呉市〕

呉鎮守府の施設としてつくられた、和洋折衷様式のデザインが美しい建物。現在は、復元修理で蘇った、建築当時の絢爛豪華な壁紙「金唐紙」が見られます (P.32)。

四つの
軍港都市



明治期の日本は、近代国家として諸国と渡り合うために、軍事施設を整えていきました。

山々に囲まれた地形、艦隊の航行・停泊がしやすい湾内、水深が深く穏やかな入江などを持つ天然の良港として、横須賀・呉・佐世保・舞鶴の四都市には軍港が整備され、海軍の本拠地が置かれました。近代の面影を色濃く残す四つの軍港都市は、「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」として、日本遺産にもなっています。

銀行

Banks

街角の近代建築



©小野吉彦

岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館〔盛岡市〕

建物は煉瓦造りで、外壁は煉瓦を基調に、要所に白い花崗岩を使ったデザイン。角地に面して、立派な塔屋が設けられています。内部も、吹き抜けの空間や古典的な内装が見どころです。

旧香港上海銀行 長崎支店記念館 〔長崎市〕

在留外国人、特に貿易商を主な取引先とした特殊な替銀行でした。長崎市内で最大規模の洋館で、1階の連続アーチのアーケード、2・3階部分のコリント式の円柱などが目をひきます。



©(一社)長崎県観光連盟

明治初期には、江戸時代の貨幣に加えて、政府や民間の為替会社が発行した各種の紙幣が流通したため、通貨制度が混乱しました。そこで、政府は、通貨制度の統一を図るために様々な政策を展開しました。銀行制度は、金融制度の近代化の中で取り入れられた仕組みの一つです。

各地につくられた銀行の建物には、当時の流行を取り入れた大規模で豪華なものがたくさんあり、その多くはまちのシンボルとして長く愛されています。

建築としての特徴は、外観だけでなく内部にも表れており、こだわりの装飾や業務の効率を考えた設計は見ごたえがあります。



旧秋田銀行本店本館 〔秋田市〕

明治時代末期の本格的な煉瓦造洋風建築。1階の白い部分は磁器タイル、2階は赤煉瓦と、様々な素材を使った華やかな姿が市街地に映えます。外観はルネッサンス様式を基調とし、基壇には秋田県内を産地とする男鹿石が使われています。

建物の中も豪華！



©小野吉彦

旧秋田銀行本店本館内部 〔秋田市〕

内部装飾も、バロックの手法を取り入れた豪華なもの。緑色の蛇紋石が使われた腰壁、装飾が施された漆喰の壁、色タイルの床、総ケヤキの旧貴賓室、白大理石の階段など、見どころは尽きません。

その他
発電施設
Power Plants



©小野吉彦

はま 旧端出場水力発電所〔新居浜市〕急斜面につくられ、約600mの落差を利用した、落水による発電システムを備えていました。内部には、発電機などの機械も残っています。



旧島守発電所
〔八戸市〕

青森県内に現存する最も古い水力発電所。現在は周辺が公園になり、ドイツ製の水車や発電機、当時使われていた設備が展示されています。

その他
農業施設
Agricultural Facilities



©小野吉彦

白水溜池堰堤〔竹田市〕谷間に散在する水田を潤すためにつくられました。地盤を保護するため、水流を弱める「武者返し」という技法が考案され、「転波」と呼ばれる美しい水流の形が生まれました。



©小野吉彦

音無井路十二号円形分水
〔竹田市〕

灌漑用水を公平に分配するためにつくられた、ユニークな形の分水施設。地域では、起伏の激しい地形や自然災害に苦勞しながら水利施設の整備が行われてきました。



築留二番樋
〔柏原市〕

農業用水の取水をするための樋。江戸時代からあり、近代になって、木造から煉瓦造に改築されました。鉄道トンネルのような馬蹄形は、水路や樋門には珍しいものです。

その他
住居
Residences



六華苑〔桑名市〕 和館と洋館がつながり、和洋が調和したつくりの邸宅。洋館はジョサイア・コンドルの設計で、一際目立つ4層の塔屋は地域のシンボルとして親しまれています。



田尻歴史館（旧谷口家吉見別邸）
〔田尻町〕

大阪合同紡績株式会社工場の向かいに建てられた、社長の別邸。洋風と和風が調和したスタイルで、洋館はステンドグラスや明るい色のタイルなどが見どころです。



更上閣
〔八戸市〕

実業家の邸宅として建てられた近代の和風建築。社寺のような梁や彫刻や、採光を考えた近代的なつくりを取り入れているところが特徴です。

その他
商業施設
Commercial Facilities



富士屋ホテル〔箱根町〕 明治11年に創業した箱根を代表する観光ホテル。洋風建築を基調としながらも、各所にちりばめられた和風の意匠が調和し、独特のエキゾチックな雰囲気醸成されています。



旧専売局千厩葉煙草専売所
〔一関市〕

大蔵省臨時葉煙草取扱所建築部の標準設計による建築。昭和初期に現在地に移築され、戦後は各種団体の事務所として利用されました。現在は「せんまや街角資料館」として開館しています。



渡辺彦兵衛商店
〔五城目町〕

事務所・住宅として建てられ、廊下を通して庭を眺めることのできる奥座敷は近代の和風建築の特徴的な例とされています。

その他

官公庁舎・公共施設

Government Buildings and Public Facilities



©小野吉彦

大阪市中央公会堂〔大阪市〕 大阪市中之島の景観を代表する建築。外観はヨーロッパ風で、内部には和風のデザインも多く取り入れられています。現在も公会堂として利用されています。



旧下関英国領事館本館
〔下関市〕

港湾都市・下関に設けられた外交関連施設。領事館としての使用を目的に建設された建物としては、日本に現存する中で最も古いものです。



©小野吉彦

静岡市役所本館
〔静岡市〕

スペイン風を基調とする建築様式。一際目をひく塔は、高さ54mで、「市の王冠としての意味」を込めてつくられたといわれています。

その他

地域を支えた近代の産業

Regional Industries that Flourished through Modernization



行田市郷土博物館 提供

足袋製造用具と製品（行田市）

行田の足袋は、記録によれば、江戸中期には商品として流通していたとみられます。

近代に入ると、諸会社の設立、ミシンや裁断機の導入、各種実用新案の登録など画期的な出来事が続き、明治40年には足袋同業組合が設立されました。

こうして、行田は明治後期から大正期にかけて飛躍的な発展をとげ、産業都市となりました。



3

Understanding and Appreciating
Modernization Heritage Properties

近代化遺産の 見方・味わい方

私たちが日頃享受している水や電気、交通などの都市基盤、生活を支える様々な産業・文化の多くは、先人たちが海外の技術等を取り入れながら必死につくりあげてきた施設やシステムが礎となっています。

最先端の技術と様式を取り入れたデザインやシステム、それらが地域と一体となっ
てつくり出す風景。

近代化遺産の魅力は、知れば知るほど増
していきます。

神子畑鉄橋 〔朝来市〕

日本で三番目に古い鉄橋です。日本の橋梁の歴史の中で、木や石から煉瓦の橋、さらに鉄製の橋へと主流が移り変わる、境目の時期につくられました。鉄製の橋で、欄干などは鋳物ならではの凝ったデザインとなっています。

©小野吉彦

近代化遺産を知る旅へ



現役の施設

Operating Facilities

近代化遺産の中には現役で使われ、私たちの暮らしを支えているものがあります。

使い続けるためには、維持管理が必要です。多くの人たちの力によって、その役目を果たしているのです。



**箱根登山鉄道
早川橋梁**
〔箱根町〕

「天下の険」と呼ばれた急勾配の難所を走る本格登山鉄道です。現在も運行し、箱根の名物の一つとなっています。



©日本製鉄(株)九州製鉄所

**遠賀川
水源地ポンプ室**
〔中間市〕

八幡製鉄所に工業用水を送る施設としてつくられました。内部の設備は蒸気から電力に変わりましたが、今も変わらず活躍しています。



別府タワー
〔別府市〕

日本で3番目に建てられた高層タワーで、同時期に日本各地で相次いで建てられた「タワー6兄弟」の三男として、別府のまちを長く見守っています。

転用された施設

Converted Facilities

現役の近代化遺産が存在する一方で、多くの近代化遺産が当初の役目を終え、新しい使い方をされています。近代化遺産の個性を活かした様々な活動が展開され、地域の魅力の創出や芸術文化の振興につながっています。



旧手宮鉄道施設
〔小樽市〕

北海道初の鉄道で、始発駅として活躍した旧手宮駅。現在は、周辺施設とともに、小樽市総合博物館の一部となっています。構内を走るSL「アイアンホース号」の運行にも使われています。



**秋田公立
美術工芸短期大学**
〔秋田市〕

かつては農業倉庫で、全体で県内の年間消費量の約3割を保管できるほどの収容量を誇りました。鉄道引き込み線が各棟をつなぎ、最寄り駅とも直結していました。現在は大学の施設や図書館となり、地域で大切にされています。



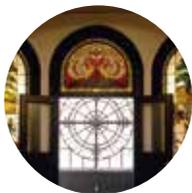
材料・工法をみる

Materials and Construction Methods

長く木造工法に親しんだ日本は、近代に入ると、鉄や煉瓦、ガラスといった新しい材料や工法を西洋から取り入れていきました。

Glass

ガラス



色ガラスを鉛線で繋いでつくられるステンドグラスは、住宅や公共建築など、様々な近代建築に取り入れられました。



©小野吉彦

横浜市開港記念会館
〔横浜市〕



田尻歴史館
(旧谷口家吉見別邸)
〔田尻町〕



尾山神社神門
〔金沢市〕

煉瓦

Brick



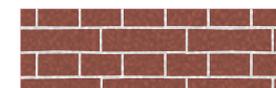
幕末ごろから、西洋式の赤煉瓦が日本でも製造されるようになりました。煉瓦の積み方には、「フランス積み」、「イギリス積み」をはじめ、様々なパターンがあります。



しもつけ
旧下野煉化製造会社煉瓦窯
〔野木町〕



フランス積み
それぞれの段で長手と小口を交互に配する。



イギリス積み
長手の段と小口の段を交互に重ねる。

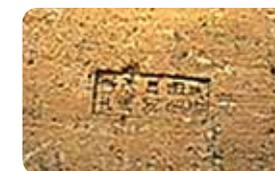
煉瓦には、製造所の名前や製造時期などが刻印されていることがあります。



ジェラルド煉瓦



開拓使函館製造煉瓦



愛知県東洋組製煉瓦



小菅集治監製煉瓦



小菅集治監製煉瓦



旧内閣文庫の煉瓦(製造所不明)

*刻印の写真すべて 国土交通省 国土技術政策総合研究所 長谷川直司 氏 提供



3 近代化遺産の見方・味わい方

Materials and Structures of Bridges

橋の 材料と構造



橋の材料には鉄、コンクリート、煉瓦、石、木などがあり、構造にも様々な種類があります。設置する場所や経済性などを考えて、それぞれに適した材料や構造が選ばれ、橋がつけられました。



若桜橋〔若桜町〕

鉄筋コンクリート造の道路橋。3連のアーチからなっています。



吾嬬橋〔中之条町〕

鉄骨を斜めに組み合わせてピンで結合する「ペンシルパニア型鋼トラス橋」です。



桃介橋
〔南木曾町〕

建設当時、この種のものとしては最長規模を誇った吊り橋。塔の部分は、下部が石積み・上部がコンクリートです。



萬代橋
〔新潟市〕

鉄筋コンクリート造のアーチ橋で、表面には花崗岩の化粧張りが施されています。水面下約15m、幅約8mの巨大な基礎を持つ、強い橋でもあります。

Various Materials

いろいろな 材料



建物や施設を支える素材、工芸品のようなタイルや壁紙など、様々な材料も近代化遺産の個性の一つです。お気に入りの材料を探してみてください。



旧曾我織物工場〔桐生市〕

柔らかく加工しやすい大谷石を、横の目地をそろえた「整層積」で積んでいます。



山根競技場観覧席〔新居浜市〕

コンクリートを使わず石だけで、長さ170m、27段を積み上げています。



無窮洞〔佐世保市〕

小学生と教師がつくった防空壕。岩盤を手彫りして美しいアーチに仕上げられています。



寿町の達磨窯〔豊田市〕

地域で盛んに製造されていた瓦を焼きあげるための窯です。土でつくられています。



綿業会館談話室
壁面タペストリー
〔大阪市〕

京都の泰山製作所による「泰山タイル」。1枚1枚のタイルが違う表情を見せます。



旧呉鎮守府司令長官官舎
(入船山記念館)壁紙
〔呉市〕

和紙や漆などでつくられた金唐紙。西洋の壁材を模して、日本で考案されました。



旧秋田銀行
本店本館
〔秋田市〕

漆喰の白い壁に、レリーフが映えます。



動きやシステムを知る

Learning about Movements and Systems

近代化遺産には、当時最新の装置や動力システム、生産の仕組みが取り入れられました。



©小野吉彦

旧佐世保海軍 しょう 工廠250t 起重機 〔佐世保市〕

高さ60m、梁の長さ80mに達する、旧佐世保海軍工廠の象徴ともいえるクレーンです。電動機類は全て完成当時のものが装備されており、現役クレーンとして稼働しています。



©小野吉彦



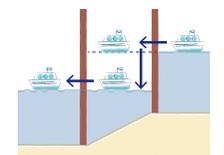
©小野吉彦

琵琶湖疏水 蹴上インクライン〔京都市〕

運河の落差がある場所で船を通行させる仕組みの一つが「インクライン」です。水路にレールを敷き、台車に船を載せて移動させます。現在、琵琶湖疏水では、使われなくなったレールの上を歩くことができます。



©小野吉彦



開門の仕組み（イメージ図）

こうもん 毛馬第一開門 〔大阪市〕

「開門」も、落差がある場所での船の通行システムです。水門で区切った「開室」に船を入れ、その開室の水を排水したり増水したりして、船を高さの違う方へ進めます。



3 近代化遺産の見方・味わい方



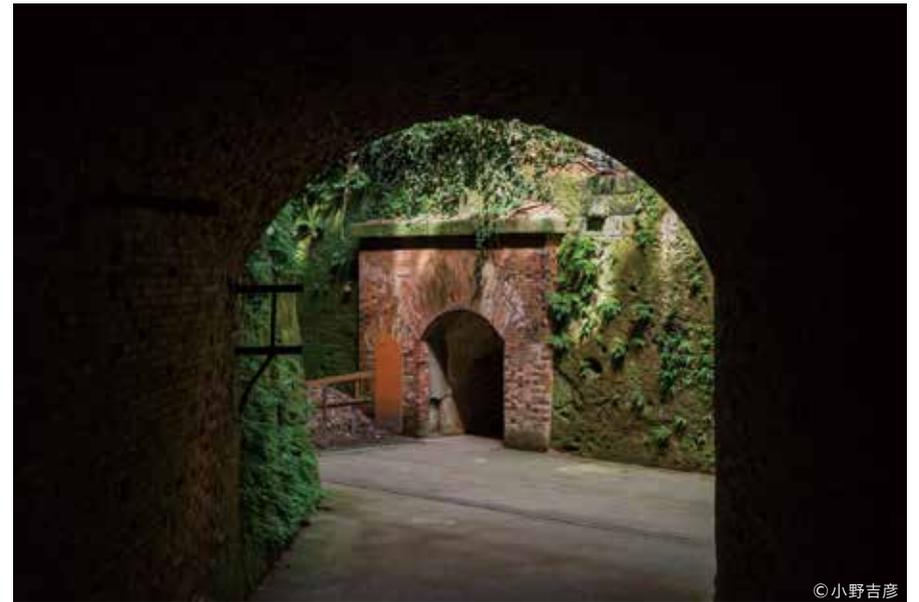
©小野吉彦

三池炭鉱万田坑跡 [大牟田市・荒尾市]

非日常の 空間を味わう

Surprised by Unexpected Views

鉱山や港湾施設の壮大な姿、
橋や建築物の優美な造形、
工場や倉庫の端正で機能的な空間、
機械の力強い動き……。
近代化遺産が周囲と一体となって
作り出す風景は、
不思議な魅力にあふれています。



©小野吉彦

猿島砲台跡 [横須賀市]



3 近代化遺産の見方・味わい方



©小野吉彦

清水港テルファー〔静岡市〕



©小野吉彦

旧横浜船渠株式会社第一号船渠(ドック)〔横浜市〕



©小野吉彦

駒沢給水所配水塔〔世田谷区〕



3 近代化遺産の見方・味わい方

デザインを味わう

Appreciating Designs

伝統的な様式に加えて海外の流行も取り入れ、工夫を凝らした個性的な意匠がたくさんみられます。構造や材料、システムの改良を追求した結果として生まれた美しさも、注目を浴びています。デザインには、当時の技術者たちの気概が表れています。

©小野吉彦

岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館
〔盛岡市〕

エントランスホールは吹き抜けの大空間。天井にもこだわりの装飾が施されています。

デザインを味わう



©小野吉彦

旧鹿児島刑務所正門
〔鹿児島市〕

西洋の城門を思わせるデザイン。薔薇窓風の装飾が施されています。



©小野吉彦

綿業会館
〔大阪市〕

様々な人の好みに合うよう、部屋ごとに異なるデザインが取り入れられました。



©小野吉彦

奥沢水源地
いつりゅうろ
階段式溢流路
〔小樽市〕

ダムからあふれた水を放流する施設です。階段式にすることで、急斜面を流れ落ちる水の勢いを和らげ、護岸が削られるのを防いでいます。



©小野吉彦

西海橋
〔佐世保市〕

橋が架かるのは、強風が吹き、渦潮が起こる針尾の瀬戸。難所での工事を乗り切るため、長大なアーチ橋の形式が採用されました。

北海道・東北ブロック

上士幌町(北海道)	小樽市(北海道)	八戸市(青森県)	盛岡市(岩手県)
一関市(岩手県)	秋田市(秋田県)	小坂町(秋田県)	五城目町(秋田県)

関東・甲信越ブロック

野木町(栃木県)	桐生市(群馬県)	富岡市(群馬県)	安中市(群馬県)
中之条町(群馬県)	行田市(埼玉県)	横浜市(神奈川県)	横須賀市(神奈川県)
箱根町(神奈川県)	南木曾町(長野県)	新潟市(新潟県)	

東海・北陸ブロック

金沢市(石川県)	静岡市(静岡県)	豊田市(愛知県)	岐阜市(岐阜県)
大垣市(岐阜県)	桑名市(三重県)		

近畿ブロック

京都市(京都府)	綾部市(京都府)	舞鶴市(京都府)	大阪市(大阪府)
田尻町(大阪府)	柏原市(大阪府)	神戸市(兵庫県)	朝来市(兵庫県)

中国・四国ブロック

鳥取市(鳥取県)	若桜町(鳥取県)	呉市(広島県)	下関市(山口県)
新居浜市(愛媛県)			

九州・沖縄ブロック

大牟田市(福岡県)	中間市(福岡県)	長崎市(長崎県)	佐世保市(長崎県)
人吉市(熊本県)	荒尾市(熊本県)	別府市(大分県)	竹田市(大分県)
鹿児島市(鹿児島県)			

*本文中にクレジット表示のない写真は、所在する市・町からご提供いただきました
(P.8 旧横浜東水堤灯台を除く)

近代化遺産の見方・味わい方

発行 2020年11月
全国近代化遺産活用連絡協議会
京都府舞鶴市字北吸1044
舞鶴市市民文化環境部 文化スポーツ室 文化振興課内
TEL 0773-66-1019 FAX 0773-62-9891

編集 株式会社マヌ都市建築研究所

協力 小野吉彦
文化庁

デザイン ろじゅらデザイン

印刷 大東印刷工業株式会社



令和2年度日本博主催・共催型プロジェクト